

平成 28 年 7 月 8 日

神戸大学大学院医学研究科教授 森 康子様

外部評価者 比治山大学学長 二宮 皓

大学の世界展開力強化事業 – ASEAN 諸国との大学間交流形成支援（平成 24 年度採  
択） – ASEAN 職との連携・協働による次世代医学・保健学グローバルリーダーの育成  
プログラム –（神戸大学・大学院医学研究科）外部評価票

平成 28 年 3 月 17 日に準備された平成 27 年度実績報告書及び関係資料、並びに中間評価結  
果を参照・分析し、以下の点を外部評価結果として指摘することができる。

1. 「中間評価結果」に対するコメント

- A 評価であることはそのまま取り組みを続けて行っても目的は達成できるという  
ことであり、これまでの計画と取組みが適正であったといえる。しかし事業におけ  
る目的・目標を計画以上に達成するためには更なる工夫と展開が必要となる。
- 留意事項として指摘されていることは極めて重要なことであるので、必ず適正な対  
応が求められる。
- 参考意見については更なる工夫の一つでありうるので検討・改善する方向で対応す  
ることが望ましい。

2. 本事業の優れた点

- 医療の分野でのグローバル人材の人材像が明確であること
  - ① 医療分野の確かな知識・技能、コミュニケーション能力、リーダーシップ及  
び各国の制度や風土文化理解の 4 つの能力で定義している。
  - ② 感染症などを事例とする現地での学びを効果的にする上でも風土や社会文化  
についても知識や経験をもつことは重要である。
  - ③ チームで仕事をするようになる医療人養成においてコミュニケーション能力  
の育成は焦眉の急であろう。
- 連携大学等が目的に応じた適切な大学機関として選定されていること
- 派遣プログラムと受入れプログラムの狙いをそれぞれ区別しながら明確化してい  
ること
- 学部プログラムと大学院プログラムで区分し、特色づけされていること
- 遠隔会議システムを導入し、遠隔授業を提供したり、会議に活用したりしたいとい  
う意図・構想があること

○ フォローアップ調査が実施されていること。

3. 本事業の改善を要する点

○ コミュニケーション能力とリーダーシップは本事業で育成する資質能力となっているのか。そうであれば、プログラムについて更なる工夫が必要であると同時に評価測定のための調査票などの開発が必要である。医療人・医師としての能力は他の一般の学生とは異なるのではないか。参加するアジアの大学の学生にも同様な資質能力の育成を構想しているのか。

○ 医療ツーリズムへの準備という点で本事業構想はどの点をどう捉えているのかが不明瞭である（そうでなくてはならないといっているのではない）。

○ 学部と大学院でプログラム形態が異なるため、単純に評価することはできないが、それぞれの受入れ、派遣学生数が適正であると自己評価されているのか。

○ コンソーシアムの運営委員会開催が極めて制限されているようであるが、ダブルディグリーなどの質保証の観点からも不十分であることは間違いない。共同責任を自覚する必要があり、大学本部の理解をうる努力が必要である。

○ こうした点が困難であるとすればメンバー大学をさらに厳選することも有効な選択肢である。学生に対する説明責任が大切であろう。